

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支え合い	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	490500022
法人名	社会福祉法人なかつすみ会
事業所名	グループホーム こころ
訪問調査日	平成19年10月1日
評価確定日	平成19年11月30日
評価機関名	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取組状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取組の事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取組を期待したい項目〕

確認された事実から、今後、更に工夫や改善に向けた取組を期待したい項目に○を付けています。

〔取組を期待したい内容〕

「取組を期待したい項目」で○を付けた項目について、具体的な改善課題や取組が期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者及び常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果(概要表)

作成日 2007年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0490500022
法人名	社会福祉法人なかつうみ会
事業所名	グループホームこころ
所在地 (電話番号)	宮城県気仙沼市東八幡前293番地 (電 話) 0226-23-3858

評価機関名	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成19年10月1日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(平成19年9月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計		9 人	
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤	0人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独 ☒ 新築 ☒ 改築 ☐
建物構造	木造 造り 1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 15,000 円
敷 金	☒ 有 (27,000 円) ☐ 無	有りの場合	有 / 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有 () 円 ☐ 無	償却の有無	
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円		
	又は1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(9月4日現在)

利用者人数	9 人	男性	2 人	女性	7 人
要介護1	3 人	要介護2	4 人		
要介護3	2 人	要介護4	0 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 82 歳	最低 76 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関	気仙沼市立病院・条南歯科医院
--------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

気仙沼湾の北側の住宅街の一角に位置し、隣接して同法人が運営する介護老人福祉施設があり、ホーム単独の取組みの他に、法人内の他事業所との合同での取組みも多く見受けられた。ホーム室内は明るく広々としており、設備はバリアフリー化がなされ、リビングや小上がりの和室等の共有スペースが居心地の良い空間になっている。

平成18年4月に開設された新しいホームであり、今回初めてのサービス評価に当たって職員全員で自己評価に取り組み、その結果見えてきた課題への取り組みがすでになされており、ホーム運営に対する職員の熱意がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初めてのサービス評価となるが、評価の意義とねらいについて職員会議で話し合いがなされ、自己評価による「気づき」が新たな取組みに活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	初めてのサービス評価の実施にあたって、ホームに関わる職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームでの取り組みについての報告を行うとともに、参加メンバーである利用者代表、家族代表、自治会代表、地域包括支援センター職員や法人事務長等によるホーム運営に関する話し合いを行い、サービス向上に取り組んでいる。しかし、参加者に市町村担当者は含まれていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口だけでなく、苦情受付ポストを設置したり、運営推進会議で家族代表からの意見を聴取する等、家族が相談しやすい仕組みがある。また、いただいた意見について課題を検討し、サービスの質の向上へつなげる取り組みがなされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が盆踊りや学校の文化祭等地域の行事に参加したり、地域の方がホームに来所し家庭菜園のお手伝いや、おかず等持参で食事を一緒にするなどの交流がなされている。また、地元自治会代表者との懇親会をもったり、ホーム内の活動を紹介するお便りを近隣に配布したりすることで、更なる関係づくりに取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取組を期待したい項目

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	「心の通う家をつくります」という法人が定めた理念を基として、「地域生活の継続」を謳った事業所独自の理念が職員によって検討され、掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員全員が理解しており、理念が実践に生かされるように月2回の職員会議で話し合いがなされている。また、職員各自が理念の実践に向けての目標を毎日ホーム内事務室のホワイトボードに記入することで、各職員の目標とする取組みが共有されるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊りや学校の文化祭等地域の行事に参加したり、ホームに地域の方が訪問できるような取組みがなされている。また、地元自治会代表者との懇親会をもったり、ホーム内の活動を紹介するお便りを近隣に配布したりすることで、更なる関係づくりに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めてのサービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて職員会議で話し合いがなされ、自己評価による「気づき」が新たな取組みに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2ヵ月に1回開催され、ホームでの取組みについての報告を行うとともに、参加メンバーである利用者代表、家族代表、自治会代表、地域包括支援センター職員や法人事務長等によるホーム運営に関する話し合いを行い、サービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席しているが、市町村担当者に対してグループホーム運営の課題を相談したり、サービス向上にむけた連携を図る等の取り組みはなされていない。	○	事業を行っていく上で生じる現場や利用者の課題解決のために、市担当者に事業について理解・支援していただく働きかけの取り組みが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況を伝えるとともに、ホームでの暮らしぶりを伝えるお便りを入居者家族へ配付している。金銭管理の報告は家族面会時に3か月毎に書面にて行われているが、毎月の報告はなされていない。	○	金銭管理の報告は、毎月の報告が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口だけでなく、苦情受付ポストを設置したり、運営推進会議で家族代表からの意見を聴取する等、家族が相談しやすい仕組みがある。また、いただいた意見について課題を検討し、サービスの質の向上へつなげる取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による利用者の心理的負担や、入居者と職員とのなじみの関係へ配慮し、開設時から職員の異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム職員と同法人内職員と合同で行われるすべての職員を対象とした勉強会や研修会が月1回以上行われている。また、外部研修にも積極的に職員を派遣している。外部研修に出席した職員は、伝達研修会において研修内容を発表し他の職員へ周知し、情報を共有できる取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	年2回開催される気仙沼・本吉地方介護サービス法人連絡協議会のグループホーム会議に、ホーム職員が交代で出席し、他ホーム職員との交流や情報交換が行われている。また、宮城県認知症グループホーム連絡協議会への加入を検討中である。		

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に合った個別の利用開始の調整が行われている。家族の方には入所前に必ず訪問していただき、本人についても必要な方にはホームになじんだけただけるよう短時間でも過ごしていただくなどの支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	入居者にこれまでの人生経験や知恵を活かしてもらい、職員がそれを教えていただき感謝するという関係性が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の調査やホーム内での日常会話、来訪した家族からの意見などから利用者の意向を把握する取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から本人や家族の思いを伺うとともに、ケア会議でのスタッフ間で協議した内容が介護計画に反映されている。また、計画書は家族の同意を得た上で交付されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などが評価され、最低3ヶ月に1回見直しがなされており、必要に応じた見直しが随時行なわれている。また、入居者や家族の意向を月に一度は確認している。		

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	山菜取りや遠足など入居者と家族の要望に応じた行事を企画したりしているほか、通院や外出・外泊支援など柔軟に対応するなど日常生活に関わる多様な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関に受診できるような支援がなされ、入居者に必要な医療について家族とホーム、医療機関の連携がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアに関するホームの対応について取り決めがない。また、重度化にともなう意思確認書も作成されていない。	○	重度化や終末期のケアに関するホームにおける対応方針について検討し、早い段階において家族・医師等と話し合いを行なう取り組み求められる。また、併せて意思確認書の作成も求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の態度はやさしく穏やかで、さりげないケアが実践されている。また、プライバシーへの配慮や記録の保管等の個人情報の取扱いについての配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床、入浴、食事、排泄等の支援が一人ひとりのペースで行えるよう穏やかで柔軟な対応がなされている。また、入居者との会話からその日の過ごし方についての希望の把握に努めている。		

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを踏まえメニューを工夫し、基本的に毎日買い出し、旬の食材や新鮮なものを使用している。また、時にはホームの家庭菜園で採れた食材も使われている。食事は和やかな雰囲気ですりげないサポートがなされている。準備や調理、後片付け等については、利用者と職員が共同で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活習慣や希望に合わせ、入浴が毎日できるような支援がなされている。また、入浴を拒む方へは時間や対応する職員を変えたり、入居者の家族から声をかけていただいたりすることによって、気分転換等を図りながら入浴していただけるように支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や編物、絵画など、利用者一人ひとりが生活歴や力を活かし、楽しみや役割を持ち生活することができるよう支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	ホームにおいて、散歩や買い物が毎日の日課となっており、利用者の希望を伺いながら日常的な外出支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を把握しており、日中は自由に出入りができるように鍵は掛けられていない。外出する際には、見守りやさりげないサポートによる支援がなされている。また、近隣の方々にも理解を求め見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	非常用食料等が準備され、避難訓練や消火器等設備点検が年2回実施されているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけがなされていない。	○	地域の人々にも避難訓練に参加してもらおう等、地域の人々の協力を得られるような取り組みが求められる。また、想定される様々な災害への対応についての取り組みも期待される。

外部	自己	項 目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握した上で献立を作成し、同法人が運営する近隣施設の栄養士が週に1度は確認し、助言を受けている。また、食事や水分摂取量のチェック表を作成し、栄養摂取や水分確保の支援がなされている。体重のチェックも毎月実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさやテレビの音量、温度の調節が適切に行われ、時計や暦も見やすい場所に設置されている。換気が適切になされ、臭気や空気のよどみもない。また、共用空間には季節感の感じられるものやなじみのものが配置され居心地よく過ごせるような配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや思い出の品が持ち込まれるよう働きかけ、利用者一人ひとりが居心地よく安心して生活できる居室づくりの支援がなされている。		